

# 健康への道

名古屋大学総合保健体育科学センター

## 健康診断を考える

近藤孝晴

健康に対する意識が高まり、人間ドックをはじめ各種の健康診断を受ける人が多くなっている。今回はこの健康診断について考えてみたい。

健康診断は、病気の予防の上では二次予防と呼ばれている。一次予防というのは、環境や個人の生活習慣（喫煙など）の是正から病気を予防していかうとするものである。これに対して、二次予防の健康診断は、病気の早期発見、早期治療をめざすものである。ところが健康診断での早期発見とは、無症状の時期に発見することをさすことが多い。成人病の多く（高血圧、癌など）は無症状のまま進行するので、無症状すなわち病気の早期とは限らない。病期や重症度は健康診断後の精密検査に委ねられることになる。病気を早期に発見し治療を開始しようと思うと、若い時から定期的に健康診断を続ける必要がある。当然のことであるが、健康診断は健康と考えている人が受けるものだということも強調しておきたい。症状がある時には健康診断や人間ドックに期待すべきでない。例えば、胃が痛いときには病院に行って診察や検査を受け、正確な診断を受けるべきであろう。

健康診断の特徴は、スクリーニング検査と云うことであろう。これは精密検査に対する言葉で、なんらかの病的な状態が潜在しているかどうかを暫定的に検査することである。スクリーニング検査では、なるべく沢山の病気をチェックするため、種々の検査を組み合わせる方法が行われている。項目をふやせばふやすほどチェックできる病気の種類も多くなるが、費用も高くなる。生命に重大な影響を及ぼさないような病気や、重大な病気で

あっても非常に頻度が低かったり、治療法のない病気をさがすために検査の項目をふやすのは、いたずらに費用がかさむばかりで無駄なことと言えよう。

健康診断を受ける時には、もし異常があったらどうしようという覚悟を決めて受診する必要がある。胃の集団検診で異常を指摘されても胃カメラがいやだといってそれ以上の精密検査を受けない人がいる。もし異常が発見されても精密検査を受けないのであれば、最初から健康診断を受ける必要はなかったのではないかと思う。

健康診断の検査の方法は科学的ではあるものの、いわゆる「運」といってもよい部分が存在する。進行癌と診断される例の中には、半年前に受けた健康診断で全く異常がなかったという例がある。逆に、健康診断で早期癌が発見され、完全に治る例もある。これらは、癌の性質や個人および環境などの要因によって癌の進展に違いがあるからだと考えられている。すなわち、進行の遅い癌は発生してから症状が出るまでに長い時間がかかるので、その間に健康診断を受ければ早期の状態が発見が可能だし、また、そういう早期癌は転移することも少ないので、予後も良いということになる。逆に、進行の速い癌は早期の期間が短く、運良くこの時期に健康診断を受けるとということも少ない。また、この種の癌は転移も速く、予後も良くない。

以上、健康診断について考えつくまま総論的に述べた。紙面の都合上各論については別の機会に譲る。  
(保健科学部)